

アフリカ文化特講

戻る

科目名	アフリカ文化特講			コード	1041000			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	2～4年	前期				
担当者名	安溪 遊地							
授業概要								
アフリカについて、日本のような先進工業国に暮らす人々もっている、「未開」とか「野蛮」といった紋切り型のとらえ方にまず気づいていただく。そして、東アジアから見ればはるかに遠い所のように思えるアフリカが、実は非常に親しいものに思えてくるという教員の経験を語る。そのことが実感できるように、最新の現地からの報告を交えて講義する。いかに日本人やヨーロッパ人が自分の文化という色眼鏡で世界を見てきたか、その偏見やおごりを教えてくれるアフリカのバワフルな元気と、その人たちが現在置かれている苦境についても、学んでいただく。そして、アフリカとそこに暮らす人々に対して、私たちにできることは何なのかを問いかけていただきたい。								
到達目標				成績評価の方法と基準				
スワヒリ語で初対面の挨拶ができる。アフリカの多様性を理解できる。人類のふるさとの大陸の伝承文化の豊かさや生活技術の確かさ、自らの環境を守ろうと立ち上がる人々の姿に励まされて、アフリカが大好きになる。				2回めの授業から座席指定とする。出席は、10回で0点、11回で1点、12回で3点、13回で5点、14回以上で10点。授業中の発言に対して1回2点の「参加点」。「アフリカに学んだこと」をめぐる大レポート1200字以上。				
学習目標			評価項目と割合					
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 自分の中のアフリカへの偏見に気づく	50	20	0	10	20	0	0	0
(2) アフリカの文化や言語の多様性を知る	20	0	0	0	20	0	0	0
(3) スワヒリ語の最初歩の会話ができる	10	10	0	0	0	0	0	0
(4) アフリカの苦しい現状と自分の暮らしの関係を知る	20	0	0	10	10	0	0	0
授業の項目と内容				自主学習課題				
(1) アフリカの豊かさとの出会いの衝撃								
1978年コンゴ民主共和国(ザイール)で、私はアフリカの熱帯雨林のなかにある村で暮らした。滞在一ヶ月で村長の養子になって、森の暮らしの豊かさを知った。				アフリカと聞いてイメージすることばを10か20あげてみよう。明るいものが多いか、暗いものか。その傾向の理由はなにかを自分で考えてみよう。				
(2) 恩師・伊谷純一郎先生のサファリから								
フィールドワーク入門。アフリカ訪問歴1959年～2001年。伊谷純一郎先生がともに歩いてくださった旅(サファリ)から直接学んだことを語る。				インターネットの検索エンジンでアフリカ、Africa, Afrique, Afrikaをキーワードにそれぞれ検索してヒットする件数を調べ、その意味を考えよう。				
(3) アフリカの歴史1								
古代からの文明の興亡。エジプト文明には黒人王朝があった。ジンバブエの古代遺跡など、高度の文明を支えた人々の歩みをたどる。				白人中心の世界観がどうしてできたのか。自分の国の場合、自分史の中でなど、いろいろな切り口で振り返ってみよう。				
(4) アフリカの歴史2								
列強による植民地化と独立。ケニア共和国を例に。				アフリカの各国の公用語は何か、国歌は何語で歌われるのか、インターネットで調べてみよう。 http://www.national-anthems.net/				
(5) 日本が支えたアパルトヘイト体制								
アパルトヘイトのもとで明るく生きる高校生を描いた「サラフィナ!」を通して、差別が法律となっていた時代の生活を知る。				「名誉白人」という言葉について調べてみよう。なにが「名誉」だったのか、考えよう。				
(6) アフリカの歴史3								
民族対立と内戦の行方。ルワンダの悲劇はどうして起こったか。				ボスニアでは民族対立といい、ルワンダでは部族抗争といわれる。何が違い、何が同じなのか。				
(7) 庶民の暮らし1								

東アフリカの大都市ナイロビに生き抜くベンキ職人の暮らしと田舎にあるふるさとへの思い。	アフリカの大都市の人口をしらべて、山口県の都市と比べてみよう。アフリカの都市につきもののスラムやストリートチルドレンが生まれる仕組みについて認識しよう。
(8) 庶民の暮らし2	
ウガンダの王様の結婚式を支える庶民たち。伝統というのは、あらたに創られる場合もあるという事実を知る。	アフリカの王室とアフリカ以外の王室の祭りや王の暮らしを比べてみよう。
(9) 庶民の暮らし3	
地酒づくりを追う東アフリカとガボンの旅から。東アジアにしかないと思われていた、カビを用いた地酒を世界ではじめて学会で紹介した安溪貴子さん協力。	日本の酒、中国・韓国の伝統的な地酒の作り方をしらべてみよう。とくに沖縄が面白い。
(10) 多彩なことばの世界1	
毎回、5分か10分ぐらいつづ練習してきたスワヒリ語の文法構造を学ぶ。ビジンとクレオルという現象を知る。	まったく未知の言葉で書かれた短い文章を題材に、文法をしらべ解読して単語と全文を訳してみよう。
(11) 多彩なことばの世界2 私の研究	
スワヒリ語の仲間であるバントゥー諸語との格闘。これまで誰も調べていない、話者5万人程度のソンゴラ語の辞書づくりと、昔話・神話の研究。	日本列島で話されている言語や方言の多様性についてしらべてみよう。アフリカはなぜあのように多彩なのか。
(12) 暮らしを守る人々1	
東アフリカの聖なる森を守るために、若者たちと長老たちが合意した秘密の計画とは。ケニア東海岸でのフィールドワーク結果の紹介。	日本で鎮守の杜や寺の森が守られているわけを考えよう。社叢学会という組織があるが何をやる学会か調べてみよう。
(13) 暮らしを守る人々2	
援助とはなにか。ケニアに住んで30年、岸田ママとよばれる女性の智恵にみちた取り組みが日本の援助のあり方をも変えていく。エチオピアの援助の現場の紹介も。	なぜ、援助が必要なのか、援助が必要でなくなる日をイメージして、その時アフリカは、自分の国はどのような暮らしになっているか考えよう。
(14) あなたの暮らしが今問われている1	
山口在住の「アフリカ大好き人間」をお招きして、アフリカからみた日本の暮らしについて、率直にお話してもらおう。	アフリカ人にあったら直接聞いてみたいことをあらかじめ準備しておこう。それが最終レポートの題になるかもしれない。
(15) あなたの暮らしが今問われている2	
質疑応答とレポートの書き方の指導。学生による授業評価	最後の授業の前夜までにレポートをメールで送信した学生には、コメントをつけて返送する。それに沿って改訂し再提出することができる。
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
使わない。参考書としては、『アフリカを知る 15人が語るその魅力と多様性』スリーエーネットワーク、宮本・松田『新書アフリカ史』講談社現代新書など。	授業はすべて地域の方々へも公開しています。レポートは、これまで言われてきたこととは違うアフリカに対する気づき(50%)アフリカの素顔についての具体的な正確な知識(30%)、的確な表現力(20%)で評価する。
受講生へのメッセージ	
自分の暮らしにとって、アフリカを知ったことがどのような意味をもつのかを考えながら聴いてください。	